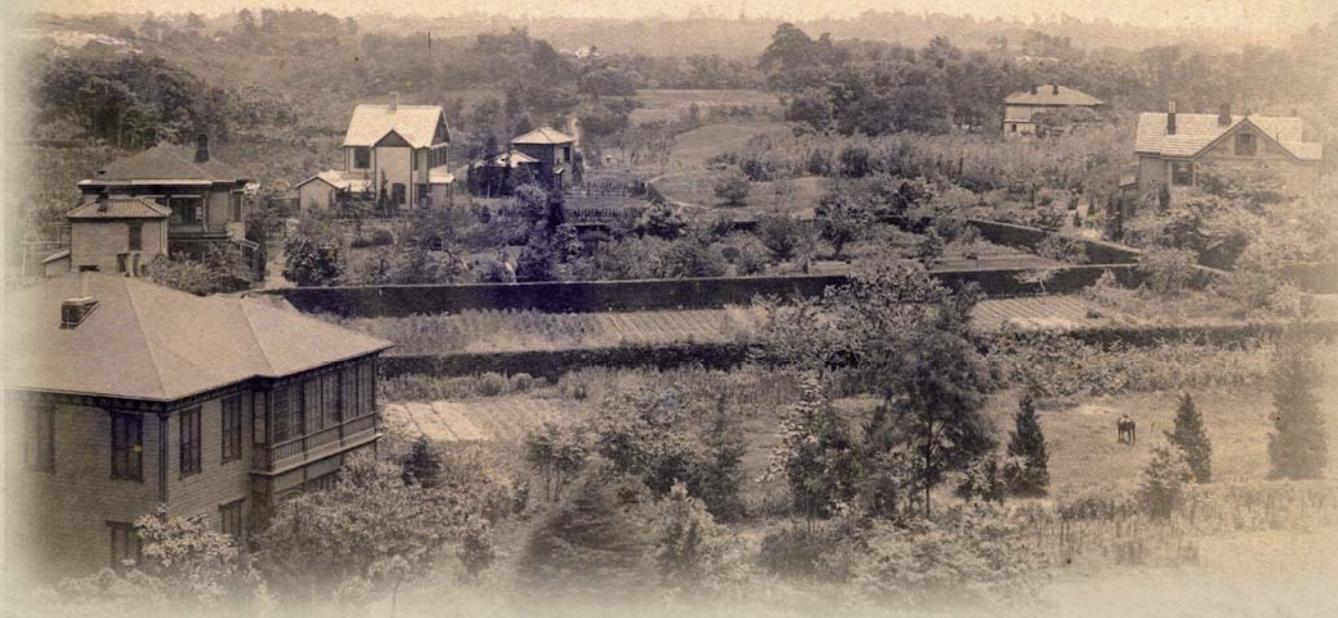


# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2009.12



今から約 120 年前の明治 20 (1887) 年ごろの青山キャンパス (青山学院の前身である東京英和学校時代)。青山学院資料センターが所蔵する青山キャンパスの写真としては、最も古く、現在の記念館あたりから本部 (ベリー・ホール) 方面を望んだ鳥瞰写真。草木や畑の中に宣教師館が点在し、右下方には牛も写っている。当時の住所は「東京府赤坂区青山南町 7 丁目 1 番地」であったが、明治 22 年東京市が成立した際に渋谷村に編入され「東京府南豊島郡渋谷村大字渋谷字青山南町 7 丁目 1 番地」となった。

- 創刊にあたり 半田正夫—2
- 本多庸一とその絶筆書簡について 気賀健生—3
- 受入れ資料・所蔵資料概要—6
- 資料センター日誌抄—7
- 資料センター規則・利用案内—8

---

---

## 創刊にあたり

---

---

青山学院院長代行  
半田正夫

青山学院はいまから135年前、メソジスト派の宣教師D. E. スクーンメーカー女史が弱冠23歳の身で、はるばる太平洋を横断して来日し、東京麻布の一隅に小さな学校を設けたのが始まりである。その後、J. ソーパーが築地に開いた「耕教学舎」、R. S. マクレイの開いた「美会神学校」を統合し、現在の青山学院が形作られていったのである。創立後1世紀以上に上るこの歴史の過程においては、戦時中の厳しい軍部による監視のもとにおいても信仰の灯を高く掲げて揺るがず、戦後の激しい学園紛争のさなかにおいても幼稚園、初等部から継続する一貫教育の流れを大切に、現在にいたっている。

このような伝統を有する本学の歴史を克明に記録として残すとともに、プロテスタント・キリスト教に関する内外の資料を収集する目的で設置されたのが、青山学院資料センターである。当センターは当初、間島記念館内に置かれたが、青山キャンパスの再開発計画に伴い、相模原キャンパスに主たる事務所を移し、一部を青山キャンパスに置くという変則的な形態を採らざるを得ない状態になっている。幸いこのような変則的な状態で利用者にとっては不便きわまりない現状であるにも関わらず、学内外の研究者によって活発に利用されているのは、その価値がいかに重要であることを示す証左であろうと思われる。

現在、青山キャンパスは2012年に人文科学・社会科学系学部1・2年生を相模原キャンパスから異動する計画のもとに、A棟(仮称)建設が始まり、これをきっかけに青山キャンパスの大改造が進められ、10年後には面目一新した建物群で占められるようになると思われるが、国の登録有形文化財に指定された間島記念館とベリーホールだけは従前のまま残され、校友にとって懐かしい面影を永久にとどめることになろう。そして歴史的な建造物である上記間島記念館とベリーホールのいずれかに、資料センターが入ることこそが、青山学院にとってもっともふさわしいたたずまいになるものと確信している。

このたび、Aoyama Gakuin Archives Letter(青山学院資料センターだより)が発刊されるにあたり、将来、このLetter自体が当センターの貴重な資料となることを願い、発刊のことばとしたい。

# 本多庸一とその絶筆書簡について

青山学院大学名誉教授  
気賀健生

「私がキリスト教を信ずるに至った強い動機は、我が祖国のためということでありました。キリストを聞いて、真に日本を救うものはこれであることを知り、これが為には身命を捧げても苦しくないと決心したのです。」

青山学院第二代院長、日本メソジスト教会初代監督本多庸一は、明治初年横浜に於て洋学修業中、宣教師バラ及びブラウンの人格的感化によってキリスト教徒となった。いわゆる横浜バンドのひとりである。自ら語る入信の動機には、新時代を双肩に荷った明治初期の青年の使命感をみとることができる。

本多庸一は、1848(嘉永元)年12月3日、弘前に於て津軽藩の重臣の家に生れ、青年時代藩中のエリートとしての教育を受け、弱冠20歳にして一番の命運を担い、明治維新動乱の渦中に奔走し、辛酸を嘗めた。

キリスト教徒となった本多は、故郷弘前に帰り、明治7年から19年まで、宣教師イングと共に弘前メソジスト教会をおこし、これを拠点としてあまねく県下の伝道に従事し、また盟友菊池九郎と相携え、塾長として東奥義塾の経営と教育にあたる傍ら、政治結社共同会を立ち上げ、青森県の自由民権運動を指導し、県議会議員、議長として県政界に活躍した。

憲法制定・国会開設直前の明治21年、新時代の思想を求めて本多は渡米した。このアメリカ滞在中、列車禍危機一髪の体験を機に、劇的な回心に至る。政治家・宗教家・教育家としての本多は、この経験を転機に、以後、教育と宣教の生涯をえらびとるのである。

本多の後半生は、明治23年アメリカより帰国と同時に就任した青山学院(当時は東京英和学校)院長の17年間(41~58歳)、日本メソジスト教会監

督の5年間(58~63歳)であるが、それはまさにキリスト教苦難の時代であった。明治22年、帝国憲法が公布され、23年に教育勅語が公布され、天皇制絶対主義国家の論



理的・倫理的基礎が確立して、キリスト教は攻撃の矢面に立たされる。早くも24~26年、キリスト教が教育勅語の精神に反し、国体と相容れないとする「教育と宗教の衝突」論争が起る。これに対し、キリスト教界の先頭に立って論陣を張ったのが本多であった。明治32年文部省訓令第12号は、学校に於ける宗教教育を禁止し、キリスト教主義学校はその死活の岐路に立たされた。この官憲の圧迫に対し、各校代表の中心となって忍耐強い政府折衝を重ね、遂に実質的権利回復を勝ちとったのも本多であった。日清・日露の戦争に際しては、国粋主義者側のキリスト教非難に対して、本多は文字通り体を張って護教的実践活動に挺身した。実際本多は、単に青山学院長としてのみならず、全キリスト教界の中心人物として、キリスト教の日本への定着と、日本のキリスト教化に奮闘したのであった。

明治40年6月、多年の懸案であったメソジスト三派合同が成った。明治6年、最初のメソジスト教会宣教師が横浜に上陸して以来30有余年、開拓の時代は漸く終り、日本人の手による日本メソジスト教会が誕生したのである。そしてこの新生日本メソジスト教会の初代監督に挙げられたのが、

本多庸一その人であった。

本多庸一この時60歳(当時の数え方で)。還暦の身を以て、伝道戦線を疾駆する5年間は始まったのである。メソジスト教会は、その条例に於て、監督は「一地方に駐在することなく、説教し、または教会の霊性上及び経営上の事務を監理せんため、總會区域内を旅行すべきものとす」と規定していたが、本多は文字通り北海道から沖縄まで、全日本教区を東奔西走、開祖ジョン・ウェスレーにならって、伝道旅行に席の暖まるいとまもなかった。監督就任の明治40年6月から翌年1月に至る約半年間に、家庭をかえりみるいとまもなく、幼い愛児の死をすらいたむ余裕もなく、前後11回にわたった伝道旅行の行程は実に19586キロメートルに及んだが、これは青森・鹿児島間4往復半、優に地球半周に匹敵する距離に当り、一か所内での移動を加えれば、更にこれを上まわる東奔西走ぶりであった。その動機を本多は自らの説教の中で、次のように説明している。

「主は『吾に従へ』と宣ふと同時に『吾は人に仕ふるために来れり』と宣ふ。吾人は日本に与ふるよりは仕ふるなり。主の後に従ひて仕ふるなり」(第2回年会説教)

一日も早く日本に、日本のキリスト教を定着せしむること—これが本多の念願であり、自らえらびとった使命感であった。

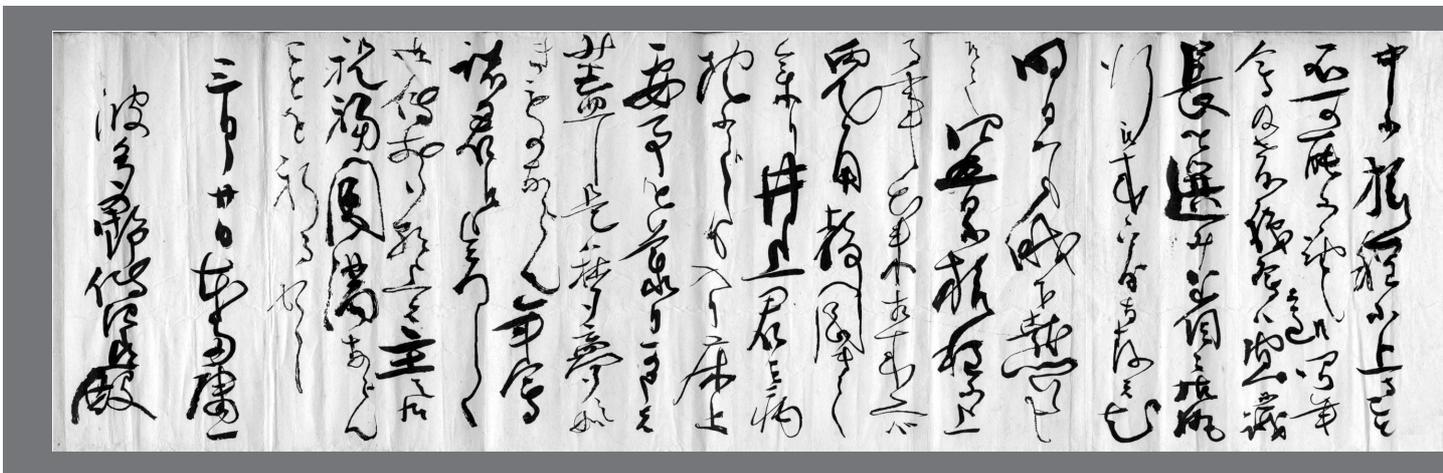
こうして、日本メソジスト教会本多庸一監督の5年間は、激しい伝道旅行に明け暮れる。日本の北端から南端まで、更には韓国、台湾から、ヨーロッパ、アメリカまで、その足跡は及ぶ。明治

43年スコットランドのエディンバラでひらかれた世界宣教大会に臨んだ本多は、「その遣わされたる宣教師の、縦し忠実に吾人を導くも、彼等を送りたる本国が、戦争の準備に汲々たるが如きは、沙汰の限りなり」と喝破し、「満場水を打ちたる如く」(岡田哲蔵)になったという。この演説で「日本の如くにキリスト教迫害の歴史を有し、且つ国民性の強大なる国に於ては、特に国民化せる教会を打ち建つる必要あり」と述べた本多監督を、イギリスの新聞記者は、「キリストに対する忠誠によってのみ形成された日本国民主義の精神」と、その見識に敬意を表したという。

然しながらこのような激務に明け暮れる生活は、次第に本多の肉体を蝕んでいった。

明治45(1912)年3月14日からひらかれた日本メソジスト教会西部年会に臨んだ本多監督は、既にその時発病していたが、病軀をおしてこれを指導し終った。然しこの時、容態は最悪の状態となり、枕も上らぬ重態となっていた。

ひき続き、東部年会が静岡でひらかれる。出席し得る可能性は、最早ない。監督の身の責任を思い、断腸の焦慮にかられつつ、本多は病床に筆をとり、伝道局長波多野伝四郎牧師に一文を書き送った。それが以下の書簡の文章であり、これが監督本多庸一の絶筆となった。(原文は巻紙に筆墨書き。)



病疾両肺気管支  
カタル腸にも不明の故  
障ありと云う

波多野兄予ハ悲  
哀を以此短文を認申候  
去る十三日より熱発  
はけし爾来日増  
進世八度より廿九度  
の間を往来し昨今は  
最高に御座候（将来を不  
知）疲労甚しく候  
此体にてハ逆も五七日  
中に旅程に上ること  
不可能に御座候間年  
会及教職会は適宜議  
長を選び着々御執  
行被成下度相願候尤  
明日にも俄下熱いたし  
候て四五日に旅程に上  
る事出来相成候へバ  
兎角静岡まで  
参り井上君の病  
院にても入り床上  
要事を承り可申候  
蓋し是は夢 夢の如  
きものならん年會  
諸君によろしく  
御傳聲願上候主の御  
祝福圓滿ならん  
ことを祈る頓首

三月廿日 本多庸一  
波多野傳四郎殿

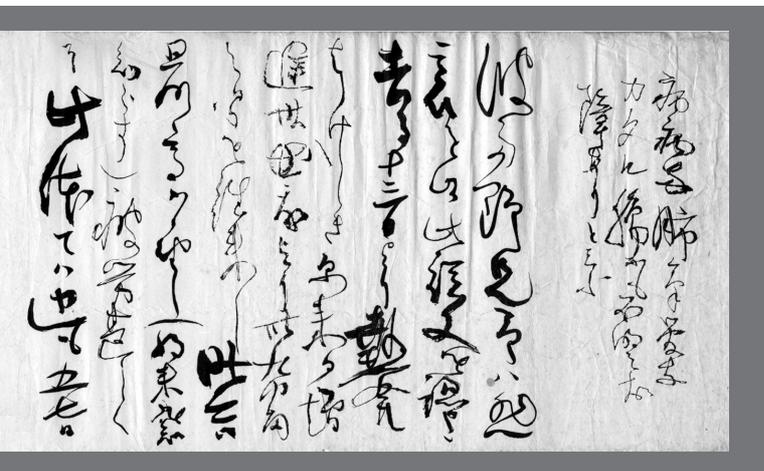
この書簡は3月28日、静岡教会における東部年  
会第1日の劈頭に議場で読まれた。既に本多監督  
の永眠(3月26日)を知らされていた会衆は、満場  
涙を以てこれを聞いたという。間もなくこの書簡  
は『護教』1079号(明治45年4月5日)に、山鹿旗  
之進によってその全文が掲載された。その後、本  
多監督追悼記念会の時に写真版のコピーが配布さ  
れたが、100年近くたった今日、その何部が現存  
しているであろうか。

青山学院には、故酒井温理教授の寄贈によるコ  
ピーが資料室に額装で保管されている。最近、日  
下部教会の小林貞夫氏から島田順好宗教部長を介  
して更に一部寄贈された。小林貞夫氏は現在日下  
部教会の幹事長、日本キリスト教団東海教区常置  
委員である。前述の通り本多庸一絶筆書簡は、監  
督追悼記念会の時に複製配布されたが、この複製  
作業を東部年会日下部教会の小野善太郎牧師の依  
頼をうけて行ったのが同教会幹事長中沢徳兵衛氏  
であって、実際の印刷は中沢氏の長男毅一氏の世  
話により北隆館という印刷所で行なわれた、とい  
うのが小林貞夫氏の推定である。その後、この絶  
筆書簡の原物は、中沢徳兵衛氏か小野善太郎牧  
師が保管することとなり、それが今回青山学院に  
寄贈されたものであるかもしれないということであ  
ったが、複数の専門家に鑑定を依頼した結果、  
これも残念乍ら矢張り複製であると判断された。  
それにしても本物の本多監督絶筆書簡はどこへ消  
え去ったのであろうか？

最後に青山学院長としての本多の関心の軸を支  
える指導精神を聞こう。

「日本の各学校各教会よりは色々の人物貴器多く  
出づべし。神学の新説等は京都(同志社)又は白  
金(明治学院)辺より将来何程湧出るやも知るべ  
からずとも、さまで羨むことにはあらず。希くは  
神の恵により我輩の学校より、所謂Man(人物)  
を出さしめよ。Manの資質多くあるべしと雖も  
Sincerity、Simplicity(誠実・率直)最も大切なる  
べし」

ここに、彼の明治期キリスト教界の指導者とし  
ての面目が、集約的に表現されていると筆者は考  
える。



## 2009 年度前期受け入れ資料

(学内部署からの資料は除く)

### 寄贈(抜粋)

- 中村早苗様より、『よろこびのおとづれ ルカによる福音書』[10ヶ国語訳]2002年刊 ほか1点
- 菊地美代子様より、児童文集、学級だよりほか初等部出版物、初等部関係資料多数
- 聖ヶ丘教会様より、『代田教会70年誌』『筑波学園教会30年 創立30周年記念誌』ほか日本キリスト教団教会史、キリスト教主義学校史 計41冊
- 小栗庸一・真澄様より、元高等部教員・越谷達之助作曲歌曲集『野葡萄』、『戦盲歌』、自筆の手紙等、ほか青山学院元教員関係資料
- 栗林一路様より、自著エッセイ6点、自作コラージュ15点
- 斎藤英夫様より、元教員ローランド・ハーカーの写真 昭和24年頃寄贈者撮影、ハーカーサイン入り
- 森下久美子様より、自著『子育て広場0123吉祥寺』2000年刊、自著『あそびをせんとやー0123子育て日記』2008年刊
- 齋藤元子様より、自著『女性宣教師の日本探訪記明治期における米国メソジスト教会の海外伝道』2009年刊

- 三戸岡道夫様より、自著『米山梅吉の一生』2009年刊
- 花村紀彦様より、青山学院体育会馬術部・緑鞍会「いななき」No.1,7~17、「1963年卒業記念馬術部ペナント」ほか、学院関係資料多数
- 気賀健生様より、渋川教会史4点、ウェスレー関係絵葉書2枚
- 羽坂勇司様より、自著『目で見ると西洋の菌に関する歴史』2009年刊
- 森田邦昭様より、AOYAMA GAKUIN SYMPHONY ORCHESTRA GOODWILL CONCERT TOUR パンフレット第1回、第3回ほか学院関係資料 計6点
- 小林貞夫様より、本多庸一絶筆書簡(複製・本文P3~5参照)
- 他大学年史・紀要類

### 購入

- 『我観録』網島政治編、杉本梁江堂、明治42年
- 『基督の徒の思想』富永徳磨著、警醒社書店、大正4年
- 『朱と紫』富永徳磨著、青山学院実業部印刷、教文館、明治32年
- 『福音同盟会演説集 第1集』開会の辞：本多庸一、堀田達治編、青山学院実業部印刷、教文館、明治31年
- 『初等科 万国日曜学課 第3期8月分 Beginners' Lesson Book』田中柑三郎編、メソヂスト出版舎、明治26年

## 資料センター所蔵資料概要

明治期キリスト教関係図書、明治期英語・英文学関係図書、キリスト教主義学校史、メソジスト教会関係資料(条例、年会記録、総会議事録、地域伝道資料、宣教師・教役者写真ほか)、個教会史、…

### 青山学院史料

#### 旧制学校・本部関係資料

- ・許認可、寄付行為、理事会、財務、学校一覧、土地・建物(書類・図面)、写真・書・画・記念品ほか

#### 新制学校関係資料

- ・各学校共通…式典・行事(入学式・卒業式・クリスマス礼拝・記念式・建物献堂式、運動会、学園祭)の次第・写真・記念品、学校年史、学則、入学案内、制服・制帽資料、学園祭資料
- ・幼稚園…『保育の実践』、行事予定表、行事次第(お別れ会、感謝の会、キャンプ、子どもフェスタ等)ほか
- ・初等部…初等部だより、行事予定表、学級だより、お誕生日カード、感謝のつどい次第、文集、児童手帳、キリスト教活動報告書、教職員退修会資料ほか
- ・中等部…学校生活の手引、行事予定、『緑友』、中等部便り、『卒業文集』、生徒手帳、教養講座講演要旨、

行事次第(母の日礼拝、音楽鑑賞会、ホームステイ等)ほか

- ・高等部…ホームステイ報告書、修学旅行研究報告・しおり、進学の手引き、図書館利用の手引、「ぶどうぞの」、「高等部通信」、「キャラバン」、「高等部新聞縮刷版」、「高等部便り」、「研究報告」ほか
- ・女子短期大学…学生便覧、『学芸』、『学生歌集』、『あおやま』、青山クーリエ、『芸術学科作品集』、学生寮資料、図書館年次報告書、図書館利用案内、学生生活の手引き、就職のしおり、オープン・キャンパス資料、礼拝週報、『みずさき』、宗教活動のしおり、ランチタイムコンサート次第、留学に関する資料、後援会資料、入試問題集ほか
- ・大学…大学資料集、大学概要、学部・学科案内、履修ガイド、講義内容、教職課程ニュース、教授会記録、AGU News Letter、国際交流センター資料、学生生活資料、チャプレン会議報告書、礼拝週報、学生宗教活動資料、総合研究所叢書・成果、研究センター成果、入試問題集、オープン・キャンパス、公開講座資料、ペアレンツウィークエンド資料、フォーラム資料ほか多数

2009 年度前期

日誌 (抄録)



4月

- ・ 閲覧 (青山) … 教員、メソジスト教会年会記録等 (2 回)。元職員、校史調査のため学院資料 (3 回)。校友、『福音新報』
- ・ 閲覧 (相模原) … 教員、大学50年史関係調査
- ・ レファレンス… 学外より、大学創立期正門の門標札篆刻は松丸東魚か。他部署より、東京オリンピック開催時の学院エピソード。校友より、校友会誌掲載写真の相談
- ・ 2008年7月から、相模原キャンパスF棟2階にて「青山学院のあゆみ」パネル展開催 (常設展示)

5月

- ・ 閲覧 (青山) … 元職員、校史調査のため学院資料 (2 回)。教員、『護教』 (2 回)。元教員、『復刻ギュツラフ聖書』
- ・ 閲覧 (相模原) … 教員、大学50年史関係調査。元教員、校友伝記調査
- ・ レファレンス… 元教員より、校友伝記執筆関連調査。牧師より、大正時代の文献所蔵
- ・ 資料提供依頼… 他部署より、大学創立当時の写真、創立者肖像写真。放送局より、津田仙肖像写真。出版社より、津田仙、一戸直蔵肖像写真
- ・ 資料センター運営委員会開催
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会総会参加

6月

- ・ 閲覧 (青山) … 教員、『護教』 (5 回)。元職員、校史調査のため学院資料 (4 回)。牧師、『宣教師事典』『護教』。他大学学部生、『青山学報』ベリー・ホールの記事
- ・ 閲覧 (相模原) … 教員、大学50年史関係調査 (2 回)。本学学部生、レポートのため学生紛争関係資料 (2 回)
- ・ レファレンス… 他部署より、戦災を生き延びた樹木の特長。本学学部生より、33年前の大学駅伝出場について。元教員より、戦前の中学部英語教員について。学外より、明治期に神学部勤務の親族について。韓国在住研究者 (校友) より、詩人白石 (ペク・ソク) 在学中のカリキュラムについて
- ・ 資料提供依頼… 他部署より、大学創立時の正門写真

7月

- ・ 閲覧 (青山) … 教員、『護教』『教界時報』 (3 回)。元職員、校史調査のため学院資料 (3 回)。校友、『福音新報』。アメリカの大学院生、博士論文執筆のためメソジスト教会関係資料多数
- ・ 閲覧 (相模原) … 学外者、メソジスト教会年会記録。本学学部生、レポートのため学生紛争関係資料 (2 回)。教員、大学50年史関係調査 (2 回)。本学学部生、キャンパスツアーのため歴史的建造物について戦前の『青山学報』等。本学大学院生、歴史的建造物の資料、戦前の『青山学報』等
- ・ レファレンス… 元教員、校友伝記執筆関連調査→閲覧 (相模原)。大学50年史編集担当者より、本多庸一回心の日付、高等専門学校創立時の教職員名。元職員より、昭和30年頃建設された校友会館の詳細。学外より、青山女学院第1期生の出身地。韓国の方より、東大門教会創立期資料→閲覧 (青山)。牧師 (校友) より、1920年頃の京都ウェスレー教会関係資料→閲覧 (青山)。

- ・ 資料提供依頼… 出版社より、津田仙肖像写真。出版社より、緑岡初等学校戦災焼け跡写真。横浜市緑の協会山手111番館より、展示出品のため美会神学校隣接の宣教師館竣工写真
- ・ 資料貸出… 初等部へ、隠れキリシタン遺物。他部署へ、大学卒業アルバム3冊
- ・ 来室 (青山) … 大学図書館職員、研究会のため漢籍調査。元教員と教員19人、貴重資料等見学
- ・ 来室 (相模原) … 本学学部生、キャンパス移転関係資料閲覧希望→大学図書館で資料調査するよう案内
- ・ 校友より、工業専門学校関係資料借用

8月

- ・ 閲覧 (青山) … 教員、『教界時報』等 (4 回)。元職員、校史調査のため学院資料 (2 回)。校友、『福音新報』。京都の他大学学部生、『大学50年史資料集』
- ・ 閲覧 (相模原) … 教員、大学50年史関係調査。京都の他大学学部生、『青山学院100年』ほか校史関係資料
- ・ レファレンス… 元教員より、校友伝記執筆関連調査。牧師 (校友) より、カナダ・メソジスト教会婦人宣教師関係資料→閲覧 (青山)。岡山の他大学学部生より、明治期讃美歌楽譜→閲覧 (青山)。
- ・ 資料提供依頼… 他部署より、常青寮写真、大学1 or 2号館のゴルフ練習場写真。出版社より、聖書翻訳委員写真
- ・ 来室 (青山) … 横浜指路教員、貸出資料の確認

9月

- ・ 閲覧 (青山) … 元職員、校史調査のため学院資料 (2 回)。京都の他大学学部生、カナダ・メソジスト教会年会記録ほか (3 回)
- ・ レファレンス… 元教員より、校友伝記執筆関連調査。元教員より、知人の親族が戦前婦人伝道師をしていた記録について。大学50年史担当者より、万代順四郎他の寄付について。他大学図書館より、作家石坂洋次郎の妻の出身校横浜聖書学園と青山学院の関係について。学外より、戦前の構内建物写真→閲覧
- ・ 大学50年史担当者より、掲載写真選定依頼
- ・ 大学図書館青山本館1階閲覧室展示ケースにて「大学開学60周年記念展」として開学当時の門標札と正門の変遷写真、関連人物写真パネル展示。～12月まで

資料センターへの指定寄付

- ・ 1965年卒大学経済学部商学科K組有志ご一同様より30,000円。累計105,000円

中学生がやってきた…職場体験



町田市は約3,000人の中学2年生を1週間にわたり近隣の事業所に数人ずつ派遣して、自らの将来を考えるきっかけとしての職業体験を実施している。青山学院大学相模原キャンパスでも受け入れており、最終日9月18日の午後、市立境中学校の女子生徒が2人資料センターの業務を体験した。写真はスキャナーで写真を取り込んでいる様子。

## 青山学院資料センター規則

**第1条** この規則は、学校法人青山学院に青山学院資料センター（以下「資料センター」という。）を設置し、青山学院史に係る重要史料又はこれに準ずると認められるもの（以下「学院史料」という。）並びにキリスト教に係る貴重な資料を収集、保存及び公開することにより、青山学院建学の精神の高揚及びその歴史への理解を図り、またキリスト教教育史研究等に寄与することを目的とする。

**第2条** 資料センターは、以下の資料を収集、保存及び公開する。

- (1) 歴史資料  
青山学院関係資料  
メソジスト教会関係資料  
内外キリスト教史関係資料
- (2) 特別コレクション  
明治期キリスト教関係資料  
わが国の初期英語・英文学関係資料
- (3) その他

**第3条** 資料センターは、第1条に規定する目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 関係資料、コレクションを収集及び整理してその充実を図る。
- (2) 所蔵資料の目録を作成及び整備する。
- (3) 学内外における関係歴史書、伝記類の編集計画に協力し、編集者又は執筆者に対して必要資料を提供する。
- (4) 学内外の研究者に対し、所蔵資料の公開閲覧の便宜を図る。
- (5) 館内に陳列室を設け、所蔵資料を随時又は適宜展示公開する。
- (6) 学内外で催される展覧会等へ所蔵資料の貸出しを行う。
- (7) 学院史に関する講演会又は座談会などを企画主催する。
- (8) その他前各号に関連する業務を行う。

**第4条** 資料センターに、資料センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、以下の事項を協議する。

- (1) 第2条に規定する資料の収集及び受入れに関する事項
- (2) 展示企画その他事業計画に関する事項
- (3) 資料センター予算に関する事項
- (4) その他運営に関する事項

**第5条** 運営委員会は、以下の委員によって構成する。

- (1) 院長
- (2) 常務理事から 1名
- (3) 学院宗教部長
- (4) 大学図書館長
- (5) 大学、女子短期大学、高等部、中等部、初等部及び幼稚園の各学校教員から 各1名
- (6) 総局長
- (7) 第8条に規定する資料センター事務長

2 前項第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任されることができる。

3 運営委員会に委員長を置き、第1項第2号に規定する委員をもってこれに充てる。

4 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

**第6条** 運営委員会は、委員長が、必要に応じて招集し、議長となる。

**第7条** 学院史料の収集及び保存については、別に定める規則による。

**第8条** 資料センターがその事業を遂行するため、資料センター事務長及び若干名の職員を置く。

2 前項に規定する職員のほか、必要に応じて臨時職員を置くことができる。

**第9条** この規則の改廃は、運営委員会、常務理事会、常務委員会及び理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則（2007（平成19）年6月26日）

この規則は、2007（平成19）年6月27日から施行する。

## 青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に下記2箇所に臨時移転いたしました。移転期間中、展示はお休みいたします。閲覧希望の場合は、余裕を持って連絡してください。

### ★資料の閲覧曜日、時間

特定の研究目的を持って閲覧を希望される方々に青山学院関係資料、明治期キリスト教関係資料などを公開。

・相模原キャンパス N棟N403  
(昼休み 11時30分～12時30分)

月曜日～金曜日 9時30分～17時

・青山キャンパス（完全予約制）ウェスレー・ホール2階  
(昼休み 11時30分～12時30分)

火曜日 9時30分～17時

土曜日 9時30分～13時

### ★休日

日曜日・国民の祝日・8月1日～7日・クリスマス・年末年始・その他青山学院が定める休日

### ★お問い合わせ・連絡先

(相模原) 〒229-8558

神奈川県相模原市淵野辺5-10-1

(青山) 〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL:03-3409-6742 FAX:03-3409-8134 (2キャンパス共通)

URL <http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>

## 資料センター運営委員

(任期2009年4月1日～2011年3月31日)

院長（職務上）	代行 半田正夫
常務理事1名（職務上）	半田正夫
学院宗教部長（職務上）	嶋田順好
大学図書館長（職務上）	山本吉宣
大学 教員1名	清水信行
女子短期大学 教員1名	中井章子
高中部（高） 教員1名	佐藤隆一
高中部（中） 教員1名	橋本和美
初等部 教員1名	飯澤正実

幼稚園 教員1名  
総局長（職務上）  
資料センター事務長（職務上）

生沼晴美  
岸 實  
傳農和子

## 資料センタースタッフ

専任職員（事務長）  
専任職員  
臨時職員  
臨時職員  
臨時職員

傳農和子  
上野裕美  
河本悦子  
塚原裕子  
中村早苗

